

JSPSボン研究連絡センター 2013 年度第 2 四半期活動報告 (2013 年 7 月～9 月)

< 目 次 >

- 1 2013 年 7 月～9 月の主な活動 …p 1
 - (1) DFG 年次総会に出席
 - (2) JSPS 事業等渡日プログラムの説明会 “Forschung und Studium in Japan”
の事前打合せ
 - (3) 頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム・学生発表会
 - (4) 第 3 回日独 6 大学学長会議に出席
 - (5) 東京農工大学トルコ・リーディング大学院プログラムに参加
- 2 2013 年 10 月以降の主な行事予定 …p 3
- 3 センター長雑感 …p 3

1 2013 年 7 月～9 月の主な活動

(1)DFG 年次総会に出席

日時: 2013 年 7 月 3 日

場所:ベルリン工科大学大講堂 (ベルリン)

概要:

7 月 1 日から 3 日までベルリンで DFG 年次総会が開催され、3 日 17 時から関係者を招待して開催されたベルリン工科大学大講堂での総会に大川副センター長が出席した。DFG シュトロシュナイダー会長は、以下の内容のスピーチを行った。

「学問と社会の距離がいまだかつてないほど近づいてきた。学問研究の結果が至るところで頼りにされている。しかし学問は常に新たな局面を生み出し、分化していく。DFG の資源配分は、全分野にわたって学問的取り組みの質だけを基準に厳格に行われている。これにより、DFG は学問研究に統一的な基軸をあたえていることにもなる。この DFG を大切にしよう。」
このように、全分野を対象に厳密な学問的質を基準にした資源配分を行う事の大切さを訴えた。

関連 URL

http://www.dfg.de/download/pdf/dfg_im_profil/reden_stellungnahmen/2013/130703_ansprache_festversammlung_strohschneider.pdf

(2) JSPS 事業等渡日プログラムの説明会“Forschung und Studium in Japan”の事前打合せ

日時：2013 年 7 月 24 日（月）

場所：フライブルク大学

概要：

11 月 15,16 日にフライブルク大学で開催を予定している JSPS 事業および日本の大学等の研究・留学プログラムの説明会 “Forschung und Studium in Japan “、および若手研究者との情報交換会「ジュニア・フォーラム」の実施準備のため、大川副センター長とアルバース職員がフライブルク大学関係者と打合せを行った。その後、「ジュニア・フォーラム」会場の視察、ドイツ語圏 JSPS 同窓会主催の「会員による会員の招待」行事に関する同窓会担当者との打合せ、フライブルク市内の交通手段の調査などを行った。



フライブルク大学構内



会場（予定）の FRIAS (Freiburg Institute for Advanced Studies)

関連 URL

<http://www.jsps-bonn.de/index.php?id=1548>

(3) 頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム・学生発表会

日時：2013 年 9 月 23 日（月）

場所：ボン大学生命医科学研究所 (Life and Medical Sciences Bonn, LIMES)

概要：

早稲田大学とボン大学が共同で実施している JSPS 頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム「ラボ交換型健康/生命医科学研究コンソーシアムの構築」の一環として、9 月 23 日にボン大学生命医科学研究所(Life and Medical Sciences Bonn, LIMES)において、両大学の学生が研究発表を行った。（大川副センター長が陪席。）学部学生と修士学生約 20 名が研究発表を行い、日独の指導教員から助言を得ながら活発に意見交換を行った。

(4)第 3 回日独6大学学長会議に出席

日時：2013 年 9 月 12 日（木）から 13 日（金）まで

場所：ゲッティンゲン大学

概要：

第 3 回日独6大学学長会議とワークショップがドイツのゲッティンゲン大学で開催され、小平センター長が出席した。日本側から京都大学、東北大学、大阪大学、ドイツ側からゲッティンゲン大学、ハイデルベルク大学、カールスルーエ工科大学の学長・副学長等が出席した。第 1 回会議は 2010 年にドイツのハイデルベルク、第 2 回会議は 2012 年に京都で開催され、今回で 3 回目となる。

小平センター長は 9 月 12 日にゲッティンゲン大学の施設を視察したあと、日独6大学学長会議において開会挨拶と JSPS 事業紹介を行った。13 日は終日、6大学学長会議ワークショップが行われ、幅広い分野にわたる課題について討論が行われた。

(5)東京農工大学トルコ・リーディング大学院プログラムに参加

日時：2013 年 9 月 24 日（火）から 9 月 26 日（木）まで

場所：トルコ・アンカラ、イスタンブール

概要：

小平センター長が東京農工大学トルコ・リーディング大学院プログラム関連の行事等に出席した。9 月 24 日、アンカラ大学でのワークショップにて JSPS 事業説明を行い、協定書調印式に陪席した。25 日にトルコ科学技術研究委員会(TIBITAK)本部を表敬訪問、イスタンブールに移動し 26 日午前学生ワーキンググループに参加、午後のシンポジウムにて招待講演を行った。

2 2013 年 10 月以降の主な行事予定

- | | |
|---------------|--|
| 10 月 7 日（月） | JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend“（於ボン） |
| 11 月 15 日（金） | JSPS 事業等渡日プログラムの紹介 “Forschung und Studium in Japan“（於フライブルク） |
| 11 月 15 日（金） | 「会員による会員の招待」（於フライブルク） |
| ～11 月 16 日（土） | |
| 11 月 16 日（土） | ジュニア・フォーラム（於フライブルク） |
| 1 月 15-17 日 | 日独学術コロキウム（於ハイデルベルク） |

3 センター長雑感

気温変化が激しく変則的だった夏が過ぎて、ボンでは近くの混合樹林や街路樹の色づき鮮やかな秋を迎えた。この秋ペーター・ヒッグス博士が、84 歳になってノーベル物理学賞を受賞された。業績の端緒は若い研究者として 1960 年代に行った自由な研究にある。ノーベル賞候補ともなれば、若い頃か

ら様々な賞を受けられることが多く、ヒッグス博士もその例に洩れない。若い人への授賞は、その仕事を認め励ます意味でも納得がいく。良い仕事をしたから受賞したのであって、受賞したから偉いわけではないだろう。

出典を覚えていないが「生涯にわたって目指す代表的なものに権力・財力・名誉・自由の四つがあり、二つ同時は難しい」とあった。ボトム・アップの研究は個々人の自由な発想に源がある。ノーベル賞クラスを受賞の多くは、「自由」を求めて研究生活を送ってきた結果に「名誉」が与えられている。賞金は多額だが「財力」ができたとは言えないし、まして「権力」は付随的にしか生じない。むしろ一種の義務と責任が生じて自由が束縛されるトレード・オフも無くはないだろう。

授賞には選考が付きもので、良い仕事をした人が沢山居る中で、限られた人数だけが選ばれる。無人島に一人で居れば、「賞」や「名誉」は殆ど意味をなさない。してみると、多くの人が関わる授賞行為があつての受賞、つまり集团的、社会的行為であることを無視できないようだ。授賞する主体は、その行為を通して自分の存在を周囲に認識させて、受賞者を自分の影響力圏内に迎え入れる。前にも「雑感」に記したが、ドイツでは学術分野の「賞」が多く、授賞を通して外国の有力研究者を自国の学術界に引き込んでいる。

社会行為としての授賞は、学術成果を讃えて、その重要性を世に知らせるための良い手段でもある。大型の賞ともなれば、授賞主体はできるだけ広汎な報道を望み、また報道側も授賞報道を通じて己をアピールする。ノーベル賞発表でマスメディアが過熱しがちなのも無理はない。しかし、やたらと財力・権力にモノ言わせた豪華な授賞式や過剰な取材競争は、必ずしも受賞者には相応しくない場合もあるだろう。優れた学術業績の多くは、生涯にわたり守り続けた「自由」を愛する心から生まれることも多いのだから。超大型賞の生みの親アルフレッド・ノーベルは、あの世で何を思っているだろうか。

ぼんぼん時計第 41 号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777
www.jsps-bonn.de